



道德実践に伴いやすい「盲点」に注意しないと、
思っていたような効果や結果を得られません。

一般的に、はじめは純粹に相手のことを
思っ行つたことでも、次第に、返礼
をしない相手に不平や不満を感じたり、
非協力的な周囲の人物を責める心が生じ
がちです。

③ 形式的な道德
道德の実践において、「今までこうして
きた」「皆がそうしている」などの理由や、
表面的な形式が強調されすぎると、その
道德が思いやりに欠けた冷たいものにな
ったり、不測の事態に十分対応できなく
なったりしてしまいます。

④ 調和を欠く道德
「自分は正しい」という意識が強すぎる
と、無理を重ねて体調を崩したり、他者
との協調性を無視したりすることがあり、
心身や集団の調和を乱します。

*
このように、私たちは不道德な言動に
は自他共に注意し、改善するよう努めま
すが、一旦、何かを道德的と判断すると、
それに伴う右のような注意点を見過ごし
てしまいます。モラロジーでは、これら
の道德実践上の盲点を「普通道德の限界」
とし、その改善をめざしています。

モラロジー研究所の概論講
座で使用されている改訂
『テキスト モラロジー概論』
について、今月は、「普通道
徳」の限界について図解し
ます。



モラロジーを楽しく、平易に学
びたい——。そんな要望にお応
えして、この連載では改訂『テ
キスト モラロジー概論』の内容
を図で解説します。ご自身の学
習に、あるいは勉強会の資料と
してご活用ください。

構成＝「れいろう」編集部

道德実践上の盲点

——「自分は正しい」のにうまくいかない理由

柏生涯学習センター研修企画担当 望月文明

誰でも、日常生活の中でルールを守つ
ているのに、あるいは良かれと思つて行
ったのにもかかわらず、予想通りの結果
を得られずに、かえって反発を招いたり、
状況がややこしくなったという経験があ
るのではないだろうか。

道德の問題は、正しいことや優しいこ
とを「するか、しないか」だけではあり
ません。正しいことや優しいことを「し
たのに」他者から誤解されたり軋轢が生
じてしまうことは、珍しいことではない
でしょう。その際に「自分は正しい、間
違ってはいない」という部分に固執してし
まっては、問題そのものの解決から遠ざ
かってしまいます。

モラロジーでは、日常的な道德の判断
や実践には、次のような注意すべき「盲
点」があると指摘しています。

① 一時的、感情的な道德

例えば、「かわいそう」「優しくしたい」
という感情は、道德の実践上、重要で
すが、そのような動機だけでは、相手のニ
ーズを見誤ったり、過保護な対応から相
手の成長の機会を阻むことがあります。

② 要求的な道德